

## 2021年度 [ 副理事長所信 ]

副理事長氏名	稲葉 大輝
担当委員会	青少年育成委員会

## 所 信

この未曾有の状況を誰が想像できただろうか。新型コロナウイルスの影響により、日常生活はもちろん、日本が、世界が一変した。人との付き合い方や仕事の流れ、ありとあらゆることで新しい形を模索するような状況となっている。

身体的にも、精神的にも成長期であり、多感な時期を過ごす子どもたちは何を思い、何を感じ取るのか。未来を紡いでいくのは紛れもなく今を生きる子どもたちであり、その子どもたちが明るい未来を描けるようになれば明るい豊かな社会の実現も近づくであろう。

時間は止まりもせず、戻りもしない。何があろうとも常に刻々と時を刻んでいく。子どもたちの貴重な時間に我々青年会議所はどんな経験をさせてあげられるだろうか。ストレスや不安が多くなりがちな今の状況だからこそ、明るく希望がもてるような経験をさせてあげることが出来ればそれは確実に子どもたちの財産となる。

そのためには青年経済人である我々富士青年会議所メンバーとして、まちの子どもたちが置かれている状況を把握し、子どもたちのために何ができるのかを考え、未来に繋がるような事業を行う必要がある。

子どもたちにとっても、当たり前となったこのIT社会では、いつでも情報を得ることが出来、またモノも簡単に手に入るような時代である。モノを与えることは比較的容易にできるかもしれないが、それで子どもたちが本当の意味で満たされるのだろうか。夢や希望を抱き、様々なことに挑戦しながら時には困難を乗り越えて知識を得たり、経験を積んでいくことが本当の財産であると私は考える。JC活動やJC運動を通じてそのきっかけ作りやサポートをすることが青少年育成委員会の担いである。担当するラインの室長、委員長をはじめ、所属するJCメンバーと共に活動、運動に全力で取り組み、お預かりした副理事長という職務を全うする所存である。

## 2021年度 [副理事長所信]

副理事長氏名	佐藤 亮
担当委員会	会員交流国際委員会

### 所 信

会員会議所はまちづくり団体と言われます。しかしながら同時に、社会を変革しようとする志を持ちながらも自ら課題と向き合い、立案し、議論し、実行する、というフローをもって、私たち自身が社会そのものを学ぶ場所だと考えます。少なくとも私にとってのJCは学び舎でした。

また、いつの時代も苦しさや厳しさは形を変えてやってきます。そして現在。経済は疲弊し、今までの日常が失われ誰もが新たな常識に対応せざるを得ない時代がやって来しました。私たちはこの困難な時代にも関わらず相集った同志です。ならば、40歳を期限としたこの未熟ながらも輝かしい第二の青春期で友情を深め、切磋琢磨し、助け合い、ともにこの困難を乗り越えましょう。私たちの成長こそが自身の会社を、まちを、国そのものを成長させ、卒業後も生涯JAYCEEとしての誇りを持ち生きがいとなっていくはずだと固く信じています。

「生き残れることができるのは変化できる者である」

哲学者のスペンサーは適者生存を唱えました。強いものが生き残るのではなく環境に適応したものが生き残る、との概念です。変化とは未知なもので、未知なものとは恐ろしいものです。その変化を恐れず、受け入れ、乗り越えようとする姿勢はまさに挑戦と捉えることができます。いま現在、先輩諸兄よりバトンを預かる私たちは未来の同志へこのバトンを繋いでいかねばなりません。変化を恐れることなく起点とし、「明るい豊かな社会の実現」への速度を早めるべく行動していきましょう。

結びに、卒業となる最後の年、一般社団法人富士青年会議所 副理事長 という大変名誉な役割を仰せつかり光栄に思うと共にその重責に革めて身の引き締まる思いです。富士市の未来、富士JCの未来、私たちの未来が輝かしいものとなるため、そして富士青年会議所の会員皆様の負託と信頼に答えるべく副理事長としての責務を力の限り果たしていく一年間とすることをお誓い申し上げます。

## 2021年度 [副理事長所信]

副理事長氏名	葛本 才陽
担当委員会	人財育成まちづくり委員会

## 所 信

昨年からの新型コロナウイルス流行により今、世界は混沌としている。そして目まぐるしいスピードで変化を繰り返しており、現状日本は新型コロナウイルスと共生していく新たな生活様式という方向へと進んでいる。青年会議所も影響を大きく受け、とうかい号中止、各種大会の中止、事業議案の変更や取り下げなど、今までの在り方では様々な活動、運動の継続が難しい段階へと来ている。

新型コロナウイルスは今後の経済にも大きな影響を及ぼすことは間違いない、しかしコロナ禍だからこそ我々青年会議所が知恵を絞り力を合わせニーズの変化の早い新しい生活様式に適した事業の構築を行わなければならない。このまちが最も必要としていることはなにか、いつ実施すれば最も効果的なのか、今行うべき事業を実施する為にニーズのエビデンスを確実にし、変化への対応にスピード感を持ってインパクトのある事業を実施していくことが重要だと考えます。この活動や運動こそが、今の時代を築き上げ、次の世代へと継承される未来に向けた確かな一歩です。

コロナ禍に入りメンバーの資質向上の機会も大きく減っているように感じる、青年会議所会員という意識の低下が生じ、例会出席率低下や委員会不参加という形で表れているのも現実です。今一度、青年会議所の規模や理念を再確認し、己の知識や価値観を育み、JAYCEEとして一人ひとりの成長と意識向上が必要です。そして、新入会員には青年会議所に継承されてきた利他の心を理解し、修練、奉仕、友情を積み上げ、切磋琢磨することで生まれる絆を目的達成の意欲に変えていただきたいと思います。

先輩諸氏が築き上げてきた歴史と、富士市のまちづくりに対しての情熱を引き継ぎ、今の時代を創り、次世代へと継承していかなければなりません。このまちから必要とされる人財が富士青年会議所から広がっていくことを願っています。

## 2021年度 [副理事長所信]

副理事長氏名	勝又 拓也
担当委員会	広報委員会

### 所 信

中国前漢時代の歴史家、司馬遷が著書「史記」の中で徳の高い武将李將軍を評して曰く「桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す」と。桃やすももは何も言わないが、その魅力にひかれてその下には人が集まり、自然と道ができる。魅力ある人物のもとには自然と人が集まる、という意味である。青年会議所も市民に奉仕を提供する若い世代が集う団体としてかくあるべきである。

しかしながら現在、正しく魅力が伝わっているだろうか。情報を受ける側にたち有益な情報を適切に提供できているだろうか。単年度制という限られた時間の中で目先の結果にとらわれず、適切な魅力の発信ができているだろうか。これら問題を再検討するとともに、様々な情報伝達の手法が混在する今日、魅力を伝えるにもただ時代の変化に対応するのではなく、既存の概念にとらわれることなく常に新たな可能性を見出し、魅力発信の先駆者となる必要がある。

そのために私は「遠慮」と「謙虚」という言葉を旗標として取り組む。

遠慮とは、遠きを慮ることである。遠きには2つの意味がある。時間的な遠さと空間的な広がりである。「いま、ここ」を懸命に生きることも大切だが、目先の結果にとらわれることなく遠い将来に思いを馳せることも重要である。また、せまい視野にとらわれることなく、広い視野、さまざまな立場になって客観的に俯瞰することもまた重要である。

さまざまな時期、立場を慮れば、さまざまな意見や見解が生じるであろう。私はそれらをひとつひとつ謙虚に受け入れる。自己の価値観にとらわれず、多くの意見、見解に誠実に向き合い、内省することによって時代や立場から先駆ける方策が生まれると私は信じる。

このように「遠慮」と「謙虚」の言葉を胸に、魅力を伝える先駆者となるべく尽力する。魅力が伝われば、共感者が増える。共感者が増えれば、大きなちからへと発展する。その大きなちからがあれば、恐れることなく未来へ明るい希望をいまくことができるであろう。

## 2021年度 [副理事長所信]

副理事長氏名	田中 彰
担当委員会	事務局・渉外

## 所 信

昨年、突如として世に現れた新型コロナウイルスによって人々は恐怖と不安に陥った。日本はもちろんのこと富士市も例外ではない。そして青年会議所活動に於いても各種大会や会議、事業は軒並み中止もしくは延期に追い込まれた。未知なるウイルスによりこれまで経験したことがなく想定をはるかに超えた試練に立ち向かわなければならなくなった。

このような情勢の中、青年会議所は試行錯誤を繰り返し挑んできたが、思い描いていたような事業を実施することは難しく、様々な制約のもと行わなければならなかった。出向に於いても同じである。青年会議所のメリットの一つである出向制度。本来であればLOMを離れ多くの青年会議所メンバーと事業を構築したり、懇親を深めたりすることで自身の視野を広げるきっかけとなり青年経済人としての成長につながっていたはずだ。しかし、コロナ禍に於いてはその機会も減ってしまった。

そのようなコロナ禍に於いても我々は新たな道筋を見つけている。例えばWEBを使った手法である。制限もあるが会議や事業を進めていくことができる。これまでの青年会議所では対面での事業が当たり前だった。「かけた時間と移動した距離と出会った人の数がJAYCEEを成長させる」と言われていた。これまで通り対面による実施には直接の交流ができる反面、コロナ禍に於いてはリスクもある。WEB活用が促進したことでリスクや負担を減らしつつ事業を数多く実施することも可能になった。また、対面では参加が難しいメンバーもWEBであれば参加することができる。そういったメンバーも含めて多くのメンバーの成長の機会に関わっていききたい。

富士青年会議所の組織の根幹を支える事務局・渉外としてこの時代に即したLOM運営、そして未来につながるノウハウを残していく。また、富士青年会議所の全会員がLOM外で活躍するメンバーを起点に成長できるように組織の根幹として尽力する。

## 2021年度 [ 専務理事所信 ]

専務理事氏名 佐野 弘明

### 所 信

人間は変わること恐れを持ち、変えることに不安を持つ。新型コロナウイルスの流行により、景気は低迷し、混沌とした空気感が蔓延している。人々の価値観や環境が目まぐるしく変化し続けている時代の中で「まだうまくいっているから大丈夫」と考え今に安じていれば即後退に繋がる。今こそ、変化を恐れず、燦然と輝く未来のために行動する必要がある。

2021年、我々の基本理念は「明るい豊かな社会」の早期実現である。1949年に東京青年会議所が立ち上がり、1951年に日本青年会議所が設立されて以降、今に至るまで我々は「明るい豊かな社会の実現」に邁進してきた。今の時代、我々の目指すべき「明るい豊かな社会」とはなんだろうか。その答えは、JAYCEE一人ひとりの中にあるのだと、私は考える。自社の未来のため、自身の子供のため、そして自分自身のためにどのような社会にしたいのか。どのような社会ならば誰もが取り残されない、明るい豊かな社会と言えるのか。答えはひとつではないのだと思う。このような時期だからこそ、我々一人ひとりが率先して行動し、明るい未来を描いていかなければならない。

未来を恐れずに行動していくためにも、しっかりと守るものは守ると共に、運動の一つひとつが本当に必要なかどうか初心にかえって考えなおす機会も必要である。時代の変化の中でニーズや状況も変化している。継続して行っているものも、諸先輩の創始の精神を汲み取りながらも、時代の変化を敏感にキャッチし、対応していかなければならない。

本年度、私は専務理事の職をお預かりさせて頂く。全メンバーが様々な壁を乗り越え、燦然と輝く未来に向かって行動できるよう全力でサポートしていくのが私の責務である。行動し、変化がおきれば歪みも生じる。どのような状況でも全メンバーが乗り越えられるようレジリエンスを高め、各々の明るい豊かな社会を実現させる行動を全力で支えていく一年とする。

## 2021年度 [ 統括部長所信 ]

統括部長氏名	佐野 泰正
担当委員会	わんぱく相撲県大会実行委員会

## 所 信

今、我々の生活環境は大きく変化をしている。IT技術の進歩によりデジタル化が進み、インターネットや様々なSNSサービスが普及し、部屋にしながら友達と会話ができ、どんな情報でもすぐに手に入るようになり生活はとても便利になった。しかし、物質的な豊かさや便利さの中で生活する一方で、人は集団から個へと変化し、本来あるべき姿を失いつつあることも多くあるのではないかと感じている。

これは子ども達の生活環境にも大きく影響をしているのではないかと感じる。友達と顔を合わす機会、人として成長する経験の場が少なくなっていると感じる。人は成功した喜びや失敗した悔しさを感じ成長していく。そして、経験から得たもの、肌感覚で得た経験は強い力となる。頭に詰め込んだだけの情報はとても弱い力にしかない。子どもの時に得た経験や仲間は一生の大きな財産となる。今、我々が考えなければいけないことは、子ども達が自らの力で経験をする場を作ることである。どんなことにも飛び込み挑戦して行ってほしい。

また、現代の子ども達において競争意識の低下も散見される。勝負の中で得ることもたくさんある。勝ち負けだけでなく、相手を思いやる気持ちや探求心は自らが経験する中で培われる。勝負の中で得た経験も将来の大きな力となる。子ども達には自分自身で明るい未来をつかみ取ってほしい。

変わっていくことは決して悪いことではない。しかし、どんな時代・環境に置かれても人として忘れてはいけないこと、変えてはいけないことも多くあると思う。コロナウィルスという見えない敵と戦い、先が見えない状況下ではあるが、仲間同士手を組みこんな時だからこそ我々、富士青年会議所が先頭に立ち率先して子ども達の未来へ繋がる事業に取り組んでいこう。

## 2021年度 [ 室長所信 ]

室長氏名	鳥居 祥子
担当委員会	青少年育成委員会

## 所 信

子どもたちの教育を学校という閉鎖空間で画一的に行う時代は変わりつつあり、学校教育は社会に開かれたものへと変革が始まっています。学校での学びを社会の中で生きる力に変える、そのための場所や機会はそれぞれの地域が、その地域の特色にあったものを提供することが期待されています。子どもたちの教育において地域というものの重要性が高まっています。

机上の学びを社会で通用する生きた学びにするための機会の提供や、学校と地域の橋渡しをすることにおいて、地域の青年経済人の集う青年会議所というのは正に適任であり、力を発揮できるのではないのでしょうか。青少年育成分野における青年会議所の可能性は非常に高いものがあると考えます。

青少年育成事業の実施においては、このような社会からの要請に沿った、青年会議所の先例にとらわれない事業を期待します。私も室長として、委員会の挑戦を全力でサポートしていきたいと思えます。

また、本年はわんぱく相撲静岡県大会を富士青年会議所主幹で開催します。わんぱく相撲は、相撲を通して勝者を称え敗者を思いやる礼の精神を、また全国大会という夢に向かって努力することを学ぶ機会を提供する事業です。富士青年会議所はおよそ30年にわたり「わんぱく相撲富士場所」を開催しています。わんぱく相撲富士場所の出場者から角界入りを果たした力士を輩出しているほか、富士市文化振興課発行の「市史だより」でも取り上げられるなど、わんぱく相撲は富士青年会議所の行う社会教育事業として地域に定着しています。この富士場所優勝者である富士市の子どもたちを含む県内9LOMの大会優勝者が、全国大会への切符をかけて静岡県大会に出場します。私は、わんぱく相撲県大会実行委員長として、子どもたちが夢に向かって競い合う場にふさわしい県大会を行うべく尽力いたします。

青少年の育成こそが、明るい豊かな富士市の未来をつくります。挑み続ける一年にしましょう。



## 2021年度 [ 室長所信 ]

室長氏名	服部 史弥
担当委員会	会員交流国際委員会

### 所 信

昨年から猛威を振るっている、新型コロナウイルスの影響により今までの日常が変化している中、我々も変化に対応していかなければいけない。しかし、これまでに経験したことがない混沌とした時代の中、一人ではどうすることも出来ないこともあるからこそ、仲間との交流が必要だと考えます。

仲間と同じ目標に向かって共に考え喜び合って、時には意見を言い合ったりすることで、絆が生まれ、そんな仲間とならどんな苦難でも立ち向かえると感じます。仲間との絆を築き育てていくことで富士青年会議所もより活発になると思います。

また、現在の富士青年会議所はメンバーは入会歴の浅いメンバーが多くなってきている状況である。それは、諸先輩方から教えられた、歴史と伝統が受け継がれなくなってしまい、JCの厳しさを伝える人が少なくなっているため諸先輩方との交流を密にし歴史と伝統を伝えていきます。富士青年会議所と江西青年会議所は姉妹締結を結び34年目を迎える。34年もの間交流してこられたのは、諸先輩方が今まで築きあげてきた江西青年会議所との固い友情と固い絆によるものである、その固い友情と固い絆をより強固なものにしなければいけないと考えます。

また、富士のまちを良くしようと考え支えている他団体、行政など同じまちで活動している人達と協力体制をとることが出来れば、今まで富士青年会議所だけでは出来ないことや、このまちの活性化のために出来ることなどが増えると共に他団体のメンバー同士の交流によって新たな発見があると考えます。

私は、2021年度会員交流国際室の室長として会員交流国際委員会メンバーはもちろん会員交流国際委員会の委員長を助けられるように、そして、会員同士の交流、諸先輩方との交流、江西青年会議所との交流を深め強固な絆を繋ぎます。

## 2021年度 [ 室長所信 ]

室長氏名	井出 幸輝
担当委員会	人財育成まちづくり委員会

## 所 信

標高日本一の富士山を北に仰ぐ富士市。富士山頂を目指して訪れる登山客は国内はもとより海外からも数多くいる。ところが、新型コロナウイルスの影響で富士山の頂を目指すことすらできない深刻な状況に陥ってしまっている。度重なる自粛や規制の影響で何かに挑戦する心や楽しみ、未来への希望さえも失われつつある今、まちのため、地域社会の明るい未来のために、我々青年会議所メンバーが立ち上がらなければならない。

2020年度に仰せつかった「まちづくり委員会」委員長の大役。コロナ禍で市民が下を向いている時にでも出来ることを考えて事業構築に捧げた経験は2021年度につながると確信している。コロナ禍独特の刻々と変化する状況下での事業構築にはスピード感が重要であることを身をもって感じ、市民のニーズに応えられるよう模索した経験は地域課題をマーケティングする考えにもつながったからである。市民のニーズを捉えた事業構築へのサポートこそが「人財育成まちづくり室」室長を拝命した私の使命だと捉えている。

コロナ禍という状況下で我々に出来ることは地域社会に貢献することである。この考えは社会問題の解決を目指すSDGsにも大いにつながる。地域社会の課題解決につながる事業を構築することは、市民のニーズを捉えたまちづくり事業に発展し、地域社会に貢献することで市民が喜んでくれることを富士青年会議所メンバーが肌で感じる事が出来ればビジネスへのヒントにもなる。地域社会への貢献を通じてメンバーの資質向上を目指して行きたい。

「明るい豊かな社会の実現」を目指す団体として重要なのはメンバーのモチベーションにある。コロナ禍とはいえ、この厳しい時期にあえて社業だけでなく、地域社会を見ることが新たな可能性も見えてくるだろう。その可能性に挑むことが出来るのが青年会議所運動の魅力でもある。ピンチを乗り越えチャンスを掴めるような希望ある一年にしたい。

## 2021年度 [ 広報局長所信 ]

広報局長氏名 伊藤 浩二

### 所 信

「withコロナ」この言葉を耳にすることも増えた。コロナウイルスが広まり私たちの生活は一変した。マスメディアやSNSでは自殺や倒産のニュースも増え、この状況に不安を抱え生活している人は少なくない。ワクチンの開発を期待するのは確かだが、いつになるのかもわからない。そしてウイルスが終息された後、私たちの生活が元に戻るとは言い切れない。このような時代の中で私たちに何ができるだろう。

以前会社の経営資源として「人・物・金」と言われていたが、近年「情報」が加わり、その価値が重要視されていると考える。検索エンジンやSNSの普及により、私たちは情報を取得しやすく、そして自ら発信できる時代になった。結果として情報が溢れ淘汰されていることも事実だが、価値ある情報は残り、そして人々に伝わるのも事実。それと同時に、個人や団体も発信する力が強くなった。特別なネットワークを持たずとも、一つの発信が世界中に伝えることも可能となった今、改めて広報の重要性を感じる。

では何を届けていくのか。青年会議所には不変的なものと可変的なものがある。63年の歴史の中で諸先輩方が明るい豊かな社会の実現に向け邁進してきた。時代が変わった今でもその活動と想いは不変である。一方で社会はここ数年で大きく変わった。それと共に私たちの生活も大きく変わったと思う。先駆者として、時代にニーズ捉え、環境の変化に対応し、新たな機能を使いながら進化してきた。この不変的なものと可変的なものは青年会議所の魅力であり、その魅力を発信するべきだと考える。

情報には私たちの想いが詰まっている。その想いを届けることで、このまちに住む一人ひとりの気持ちや生活を好転させることが可能だと信じている。広報の力を信じ、混沌とした時代に燦然と輝く希望を届けることのできる一年にしたい。そして同時に、私たちの活動に賛同してくれる仲間が増えることを期待している。

## 2021年度 [ 財務理事所信 ]

財務理事氏名 藤田 峻弘

### 所 信

お金がない！

これが富士青年会議所の抱える問題の1つです。そう、端的にお金がないのです。近年の富士青年会議所は、繰越金を食いつぶして活動しています。もちろん、繰越金が増大していくのも問題ですが、他方で、繰越金が枯渇するのも問題です。このままのペースでは、あと約5年で繰越金は枯渇します。

繰越金の枯渇が予想される場合に、一般論として、富士青年会議所が取り得る対応は何でしょうか？大きく分ければ3つの対応があるでしょう。一つ目は、枯渇する前に対応する。二つ目は、法人を解散させ、別形式で富士青年会議所を存続させる。三つ目は、枯渇してから考える。2021年度理事長は、これら3つの対応のうち、枯渇する前に対応する、を選択されました。さらに総務の役割として「レジリエンス」をコンセプトとする抜本的な見直し、さらには、コンプライアンス遵守も掲げられています。

そこで、私は、一年間メンバーに対して、ひたすら必要性や合理性を問い質すことにしました。問題点を見つけたら、ひたすら指摘することになりました。だから、皆さんは頑張って理論武装をして下さい。情熱論は不要です。情熱の証明は、風雪に耐える論理を作ることです。なので、「したい。」という語尾は許しません。「すべき。」という語尾しか許しません。この精神をもって、皆さんに理論武装を促します。

最後に、アインシュタインは、机上でブラックホールの概要を導出しました。人類が初めてブラックホールの直接撮影を成功させた約100年前の出来事です。つまり、紙とペンの代金数百円という極限の低予算と脳みそがあれば、誰も見たこともない世紀の大発見ができるのです。もちろん適法です。

私はひたすら問い質しますので、皆さんは頑張って「アインシュタイン」になって下さい。皆さんが「アインシュタイン」になった暁には、思いっきり舌を出して下さい。もちろん、私に向かって。

## 2021年度 [直前理事長所信]

直前理事長氏名 湯澤 秀斗

### 所 信

2020年度、理事長の職をお預かりし、新型コロナウイルスの影響において様々な困難が発生しましたが、こんな時だからこそJCは足を止めてはならないとメンバーと共に様々な運動や活動を展開させていただきました。その中で今後の青年会議所の運動・活動において本当に取り組んでいくべきことは何なのか、今一度考えるきっかけになったのではないかと感じます。

このまちに住まう人々の生活と企業の未来をかけ、私たちはこれからを担う世代として、withコロナ・アフターコロナ社会における地域の役割を理解し、ネガティブにその未来を待つのではなく、どんな社会にしていきたいのか、ポジティブな未来を描き、それを実現する運動を展開することが必要です。全ての運動が私たちの生活と生業につながるものであり、家族や会社のための方策であります。組織のための運動ではなく、運動のための組織への改革を共に進め、この混沌とした時代を乗り越えていかなければなりません。

そのためにも、まずは組織力をもう一度立て直し、より強固な組織にしなければなりませんし、新型コロナウイルスの実態がわかってきたからこそ次に進むステップアップの年でもあると考えます。

そして、SDGsのゴールである誰一人取り残さない社会の実現は我々青年会議所が掲げる「明るい豊かな社会」への実現に繋がります。同じ地域に住まう他団体ともパートナーシップで手を取り合い、まちを盛り上げていくことが重要です。

目の前に道がないのなら道をつくればいい。

目の前に立ちはだかる壁があるのなら、その壁を壊せばいい。

私たち青年なら挑戦し乗り越えることができる。

## 2021年度 [ 監 事 所 信 ]

監事氏名 野口 栄一

### 所 信

他団体が多く存在する中、40歳までの青年経済人が集まり、個々の貴重な時間を、このまちを良くするために、子どもたちの健全育成のためにと、多くの時間を費やし真剣に議論する団体は青年会議所しかない。

委員会、理事会での議論、事業を通じ、苦楽を共にした仲間同士が自己成長し合い、友情を育む。この繰り返し、メンバー一人ひとりの更なる成長に繋がり、成長したメンバーが所属する富士青年会議所が、組織として一丸となり、富士市のまちのために真剣に取り組む団体であるからこそ、富士市には富士青年会議所が必要であると考えます。新型コロナウイルスの影響により、今までの個々の生活、社会的活動が見直され、インターネットやAIの技術が急速に取り入れられ、時代が変化します。時代の流れをしっかりと把握し、市民のニーズを的確に捉え、一歩先を見据えて失敗を恐れず、活動・運動をしていく必要がある。

毎年、新入会員が入会し、卒業するメンバーがいる。常に若い血が入れ替わる団体であるため、入会歴の浅いメンバーには、しっかりとこの団体の魅力を伝えていかなければならないと同時に、歴史を把握したうえで物事を変える必要性も伝えていかなければならない。

今年度、監事という大役を仰せつかるにあたり、まずは理事の職務執行を監査し、法令及び定款の定めるところから逸脱せずに職務を執行できるようにしていきます。次に、この法人の業務並びに財産及び会計の状況を監査し、会員から預かった貴重な会費を有効に使用して一般社団法人富士青年会議所の定款に定める目的を達成できるように使命を果たして参ります。富士青年会議所が富士市にとって必要とされる団体でなければならないことや、富士青年会議所の歴史や魅力を、とくに入会歴の浅いメンバーに対し伝え、メンバー一人ひとりが多くの目標を持ち、未来を恐れず、果敢に目標に対し挑んでいけるよう、サポートしていく所存です。

## 2021年度 [ 監 事 所 信 ]

監事氏名 岩間 優

### 所 信

我々は今、何を思い、なぜここにいるのだろうか。目まぐるしく変化、進化を遂げる日々には迫られ、漠然とした日々を送っていないだろうか。流行している新型コロナウイルスが与える影響に、果敢に立ち向かっていけているだろうか。人として、経営者として、親として、JAYCEEとして、誇れるような人生を歩んでいるであろうか。始まりがあれば、終わりもある。我々人間も、この世に生を授かった始まりがあれば、死を迎える終わりがある。そして、始まりと終わりの間には、現在がある。やがて訪れる終わりという時から、我々に今、何ができるのか、試されているのではないだろうか。

「過去から学び 今を生きる 未来のために」  
この言葉を胸に、我々は、明るい豊かな未来に向かって常に挑戦し続けなければならない。挑戦することを諦めた時、辞めた時に、このまち、国、青年会議所の成長は止まる。我々富士青年会議所メンバーも、次世代を担う青年である。志高く、誇り、情熱を持ち、常に前を向いて歩んでゆく、チャレンジャーでなければならない。

昨今、多くの企業や団体が、本格的にSDGs（持続可能な開発目標）を取り入れている。なぜ、力を入れるのか、なぜ運動に取り入れていくのか。これは、我々の住まう地球の現状を考えれば必然であろう。我々は、地球資源に感謝をし、安心して暮らせる持続可能な社会を、誰一人として取り残すことなく、皆で創造していかなければならない。青年経済人として、環境への配慮も意識して行動していこう。

現在、日本のビジネスシーンにおいて、外国人主導型のビジネスが増加している現状がある。インターネットの発達などにより、世界中の人と簡単にコンタクトを取れる、グローバルな社会になっているからであろう。我々が日常生活で使用する物も、多くが外国産である。しかしながら、現在、日本のパスポートは、世界一のパスポートと言われている。ビザなしで渡航できる国の数が世界一なのだ。これはどういう意味か。Made in JAPAN 私は、物、人に限らず世界に向け強くありたいと思う。

我々、富士青年会議所も、日本人の誇りである精神、和の心を忘れず、積極的に行動し、発信していこう。その先には、必ず、明るい豊かな社会の実現があるはずだ。時間は有限。どう使うかは、自分次第である。

志高き青年ならば、変化を恐れず、何事も挑戦し続けよう。